

広報誌



# かけはし

2022年  
春号  
No.62

TAKE FREE

## 教育 × 医療

— ICTと子ども達の成長 —

福岡市教育センター  
人材育成課 指導主事 吉本 悟氏

連携医療機関の紹介 Vol.21

第19回 院内研究発表会

診療報酬・特別療養環境室(差額ベッド)料の改定

日記な後記

かけはしマップ



# 教育×医療

## ICTと子ども達の成長

**吉本 悟** 福岡市教育センター 人材育成課 指導主事

2007年より、福岡市立中学校や福岡教育大学附属福岡中学校で国語科教諭として教鞭をとる。2017年、Apple社が認定するApple Distinguished Educatorに選出される。2018年より福岡市立西陵高等学校へ赴任。ICT活用と探究学習を推進し、2020年春の一斉休校時には全国に先駆けてオンライン学習を実現し、文部科学大臣賞優秀教職員表彰を受ける。2021年10月より現職。「学ぶ」と「遊ぶ」を類語辞典に入れることを夢とし、学ぶことや成長することにワクワクしながら子ども達が育てば、世の中はもっと楽しくなり続けると考えている。



### —— 教育ICT導入の背景

ICTが教育に導入された背景には、様々な方面からの文脈や期待があります。私が考えているのはその中のひとつで、単純に「子ども達が自力で楽しく勉強できるようにするために、ICTという道具が必要では？」と考えて、導入するに至りました。

PISA(学習到達度調査)という国際調査で、2000年代初頭に日本の順位が少し下がりました。ちょうど「脱ゆとり」と言われた頃で、学力不振と言われ社会問題になりました。国を挙げて対策を行った結果、10年後の調査でテストの点数・順位は回復しました。しかし、「学習への意欲」や「学習の意義を感じるか」などの項目は一切上がらなかったんです。日本の先生たちは子ども達を勉強はできるようにしたけれど、やる気は全然回復させられなかったんです。その頃に「させられる勉強」より「自ら進んでやる勉強」の方が、より楽しく勉強できるんじゃないかなと考えていました。ちょうど時代の流れは、スマートフォンの普及が始まり、インターネット上に知識が莫大に増えていった時期でした。歴史をさかのぼると、物知りな人が口伝で伝えるというところから教育が始まり、紙と文字が生まれたことで、その知識を書き写して持っている人が「知識がある人」となり、それが活字で製版できるようになって拡散することで知識が爆発的に増えました。それでも、それを多く集めている図書館といった存在が必要でした。誰でも全てにアクセスできる訳ではなかったので、それを沢山集めてきて噛み砕いて伝える仕事が「先生」だったんです。これは「子どもが自分から学ぶということ是不可能」という前提がある仕組みとして成り立っているんです。ところが、ポケットの中のスマートフォンで世界中の知識に容易にアクセスできるよ

うになって、その量と幅に関しては、以前とは全然違う時代・状況が来ていました。それなら、子どもがICTを持って、必要だと思った時に自分で知識にアクセスして情報を集め、それを使って何ができるか、そこに先生はどうサポートできるかという教育にしたら、子ども達がもっと自分から動いて楽しくできるんじゃないかなって考えたんです。



しかし、教育ICTの分野で日本は、諸外国に比べてすごく遅れをとっていました。OECDの調査で「学校でICTを使って勉強する」という項目は、49カ国中で長年最下位だったんです。その一方で、「自宅でICT機器を使う」という項目では1位だったんです。要は、ゲームやメッセージアプリなどの、勉強と関係無いところでは世界で1番使っていた子ども達ですが、学校はそれを入れさせまいとしていたんです。もちろん、色々なトラブルを想定して遠ざけようとしてきたのですが、その間に諸外国は「これをどうやったら教育に使えるのか」という発想で動いていました。子ども達のことを思っていたのは一緒なんですけど、スタートの発想がちょっと違って、気が付くとすでにガラパゴス化していたんです。社会と学校の乖離も進んでしまっているし、

今後の情報社会の人材を育てていくにも「これはまずいよね」となりました。加えて、AIの時代がやってくると言われる中で、ビッグデータがすごい力を持つようになってきました。様々な分野で世界規模で活用されていますが、それを教育でも使えるんじゃないかという考えが出てきて、そのためには1人1台端末が必要になってくる、という大きな流れもあります。

「こんな子に育てたい」「ビッグデータも使いたい」「IT分野の最先端人材が育つ環境も整えたい」「遠隔地との教育」など、様々な文脈がある中でコロナ禍になり、一気に進んで今は当たり前になりつつある、という印象です。



### —— ネット依存・ゲーム依存

学校では「情報モラル教育」という形で授業を行っています。1人1台端末になる前の情報モラル教育というと、自動車の免許更新の時に見るビデオに似ていて、「こんなトラブルが起きてしまいました」みたいな内容の教材でした。しかし現在はそれでは追いつかないので、「権利」「安全」「健康」「モラル」の内容で、現場の先生たちが様々な工夫をしながら授業をしています。

ネット依存やゲーム依存は「健康」に該当すると思いますが、長時間の使用による視力や首などへの影響といった身体的な話ばかりで、残念ながら依存の話はできていません。個人的には、4つの内容のうち「健康」にもっとフォーカスすることは大事かなと考えています。確かに目や首などは分かりやすいですが、依存や精神的なものも、もっと言葉にしてみんなで見た方がいいと思っています。言葉で捉えることで、精神論ではなく、対処法や必要性を考えられるようになっていくんじゃないかなと思っています。

また、子ども達だけでなく教員や保護者も、医療的な見地で捉える必要があるかなと思っています。保護者の中には、本当に困っている方もいるのではないのでしょうか。依存しがちになっている子に、本人や保護者、学校がどう対処していったらいいのか、そもそもネット依存やゲーム依存にならないためにどうしたらいいのか、といったことなどを、医療的見地からぜひ教わりたいですね。

### —— 発達障害

特別支援学校や特別支援学級のICT活用は結構進んでいて、ニーズに応えるための支援テクノロジーとして、積極的に取り入れようとしてきた先生方が結構いらっしゃいます。それは通常の学級よりも遥かに進んでいて、ICT教育は特別支援教育がリードしてきたと思っています。福岡市の特別支援学校がiPadを導入しているのも、キーボードではなくタッチだけでも操作できる直感性に優れている点や、アプリケーション数も多く、その子に合わせて色々カスタマイズしやすいという利点があるからです。また、子ども状況に応じた個別の教育を実践する風土が、特別支援学校には以前からありました。ただ、通常学級の中に在籍している発達障害のお子さんとなると、「その子に合わせて」というところまでは、まだ進め切れてないと思います。

1人1台端末を導入する理由のひとつに、個別に最適な学びを子ども達に提供する「学習の個別化」という目標があります。今までは「先生の授業をみんなで一緒に考える」でしたが、それではついてこれない子どもがどうしても出てきます。「1人だけを見るなら完璧に教えられるのに」っていうのは、教師みんなが感じているジレンマです。そこで、それぞれの子どもに応じた学習のカスタマイズを、AIとICTを活用してできないかという期待がかかっています。

もちろん、個別最適化を目指してICT機器を配ったところで、みんながうまくいくわけではありません。やっぱり個別に人が関わってサポートしていく必要があって、発達障害の子に対してどう関わっていくのか、その子に応じたプログラムや使い方はどうするのか、というところまでは、まだ全然進んでいないんです。



### —— 未来への展望

私のスタートだった「ICTでもっと子どもたちが自分から楽しく学べるんじゃない?」というところは、私の中で合致しています。子ども達にとって、ICTが情報の収集や共有、創造や発信するのに役立っていて、そういう使い方をすることで子ども達はいきいきと勉強して、「大人になるぞ」って楽しんで育っていつてくれて、福岡で起業して、GAFを超えようような会社を作ってほしいですね。

日本は人口が減少し、少子高齢化しています。色んな分野の方が、この状況下でどう国の成長を止めずにやっていくかを頑張ってくださいって、教育もその中のひとつとして応じるべきだなと思っています。

福岡市は人口増加都市です。国内外問わず多くの方がチャンスを求めて移住してきて、福岡市はそのスタートアップ支援も行っています。ただ、私たち福岡市の教員は、そういった人たちと肩を並べて切磋琢磨できる人材を、福岡市内で育てる必要があると考えています。

世の中問題がいっぱいだからこそ、問題解決を人と一緒に楽しんでやって、そのために勉強して常に成長して、人を幸せにできて自分が幸せになる、そんな子に育ってほしい。ICTはそのための道具だと思っています。



## 第19回 院内研究発表会

3/5に、院内研究発表会が当院研修室で開催されました。コロナ禍のため、参加人数の制限や都度の消毒などを実施し、参加できなかった職員は後日ビデオ閲覧での開催となりました。

演題は11題あり、各部署が行っている取り組みをそれぞれの特色で発表し、いずれも甲乙つけがたい内容でした。

今後も様々な取り組みを行い、より良い「納得のいく医療」が提供できるよう、尽力いたします。



## 診療報酬・特別療養環境室(差額ベッド)料の改定

診療報酬の改定が行われ、4/1より新しい診療報酬に基づいて、医療費の請求を行っています。また、A1,A2病棟の特別療養環境室(差額ベッド)料の改定も行われています。そのため、これまでの支払額と若干異なる場合があります。不明点等ありましたら、お問い合わせください。

患者さんやご家族の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。



### 日記な 後記



作業療法課  
前川 真衣



近年、コロナ過でおうち時間が増えたこともあり、自宅で映画鑑賞をしている方もいらっしゃるのではないでしょうか。そこで、印象に残った作品を1つご紹介したいと思います。

アカデミー賞を2部門受賞した「ファーザー」という作品です。老いた父親が認知症を患い、次第に自分自身や家族のことが分からなくなり、記憶や時間が混乱していく物語です。主人公の父親の視点で描かれており、認知症の方が見ている世界を疑似体験できる作品となっています。

私は作品を通して、主人公と共に戸惑い、混乱し、家族の愛や絆に涙しました。医療従事者として何ができるのか、改めて考えさせられる作品でした。ふと思いついた時に、鑑賞してみてください。

「かけはし」に関するご意見や感想などございましたら、メール・Facebook・職員・右記QRをお願いいたします。





< 診療科 >

心療内科・精神科

< 診療時間 >

月・火・水・金曜  
9:00～12:00  
14:00～17:00  
木・土曜  
9:00～12:00  
日・祝日  
休診

< アクセス・リンク >

福岡市博多区東光2-22-25  
TEL 092-432-6166  
URL [www.yugyou.com](http://www.yugyou.com)



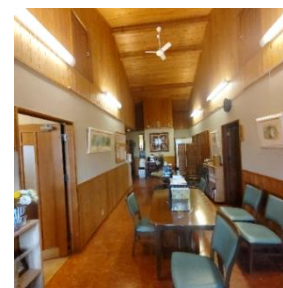
藤川院長より

当院は、博多駅筑紫口から空港通りを空港に向かって15分ほど歩いて、右に入ったところにあります。街なかには比較的広い駐車場を持つ、2階建ての建物です。建物については、初代クリニック院長の故中村医師の想いからお話ししなければいけません。開設当時、彼は「クリニックで認知症デイケアをしっかりとやりたい。そのためには、昔自然に触れていたことが思い出されることが是非とも必要。」と庭を作り、昔の小学校をイメージした木造の建物を建てました。木目の感触や土壁の息遣いが、もちろん認知症の方にとっても良いことは言うまでもないのですが、訪れた他の方々、特に心身が疲れた方には、とても癒える感じがするようです。もっとも、自然から切り離されて病みつつあるのは何も都市部に住む人々だけでなく、今や人類全体に及んでいるかもしれません。

私は2010年から当院を引き継ぎました。認知症についてはそれまでもある程度の経験があり、分かっているつもりでした。ところがクリニックで診療するようになり、私の認識は大きく変わりました。認知症の病態は多様です。脳は複雑ですから、病理も簡単にタイプ分けができないのは当たり前ですが、それ以上に、その方が生活されている家庭や環境の影響が大きく、さらに、これまで生き抜いてこられた人生の厚みや重みがとても大きいように思います。認知症の方々から私は、これら豊かさとともに、不思議にも安らぎをも与えていただきました。

一方、私の中には前職の福岡県立精神医療センター(太宰府病院)での、精神医療の大きな体験があります。太宰府病院は歴史が古く(昭和の初め!)、県の中核病院という位置づけでしたから、他の病院で「難しい」と紹介されてきた方々の病状・問題を、なんとか改善・解決しなければいけませんでした。「精神医療では1番難しい病態がどうして大学ではなくて地域の病院で診ることになるのか」という問題はさておき、その時私が

理的にも非常に遠いこと」「病院に来るまでの間に治療の適切なチャンスをいくつも逸したために、複雑化しているケースが多かったこと」です。精神医療が扱う領域は色々な考えが入り込みやすく、特に街なかでは混乱・錯綜しやすいことも、その理由かもしれません。



そのようなことから、私はクリニックを引き継ぐに当たり、病院精神医療での確かな考えと技術を、街なかの最前線できちんと提供することを目標としました。その後、追加・拡充した精神科デイケアも、カウンセリングも往診も、基本的な考え方や姿勢は同じです。クリニックには、ご家族の相談から、適応障害・うつ病・発達障害・依存症など色々な方々がみえますが、やはり同じ考え方・姿勢での診療に努めています。雁の巣病院は、アルコール依存症は言うまでもなく、民間病院としては早くから急性期病棟を立ち上げられ、地域精神医療に責任を持つ姿勢・覚悟を早くから示されていました。必要な時に頼れるところがあるというのは、クリニックとしてはたいへん心強いことです。また、最近では、認知症治療も専門病棟化されています。これら病棟のどれもが、同じコンセプトの病棟で格闘した私にとっては懐かしく、距離をとっても近く感じます。

今後とも連携のほど、よろしく願いいたします。

医療法人優なぎ会

GANNOSU HOSPITAL

# 雁の巣病院

精神科・心療内科

内科・リハビリテーション科・歯科

293床(精神病床264床,一般病床29床)

〒811-0206

福岡県福岡市東区雁の巣1丁目26番1号

TEL 092-606-2861

FAX 092-607-2211

<http://www.gannosu.org>



## 納得のいく医療

患者・家族の皆様、そして私たちが  
納得のいく医療の実践に努めます



### 診療時間

平日 9:00 ~ 17:00

土曜日 9:00 ~ 12:00

日・祝祭日 休診

外来受診は予約制となっております。

ただし、急患の際はこの限りではございません。

24時間365日、ソーシャルワーカーがご相談をお受けします。まずはお電話にてご相談ください。

### 面会時間

9:00 ~ 19:00

### アクセス

#### 【車でお見えになる方】

- ・高速道路利用  
九州自動車道 古賀インターから約20分
- ・都市高速道路利用  
福岡都市高速道路・香椎浜ランプから約10分

#### 【西鉄バスをご利用の方】

系統：21A番,21番,210番,220番  
バス停「雁の巣」下車 徒歩 約2分

#### 【JR九州をご利用の方】

香椎線(鹿児島本線 香椎駅で乗り換え)  
雁ノ巣駅 下車 徒歩 約5分

### 関連施設

医療法人優なぎ会

訪問看護ステーションがんのす

〒811-0206 福岡市東区雁の巣1丁目26番1号  
TEL 092-609-9119



医療法人優なぎ会

もりもと病院

〒847-0056 佐賀県唐津市坊主町441  
TEL 0955-72-5176



医療法人共和会

小倉リハビリテーション病院

〒803-0861 北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1  
TEL 093-588-0668



社会福祉法人 松寿会

特別養護老人ホーム こくらの郷

〒803-0275 北九州市小倉南区高野4-12-11  
TEL 093-453-1100

